

機械工学委員会ロボット学分科会(第26期・第7回) 議事要旨

1. 日時：令和7年3月17日(月) 10:00～12:00
2. 会場：オンライン開催 (Zoom)

出席者 (オンライン)：新井史人(委員長)、田中真美 (副委員長)、吉田英一 (幹事)、山西陽子 (幹事)、浅間一、池浦良淳、井村順一、鈴木健嗣、永井由香里、城山英明、古江美保、宮崎久美子 (12名、敬称略)

欠席者：光石衛、荒木稚子、竹内昌治、長井志江、増澤徹 (5名、敬称略)

3. 配布資料

- 資料 26-7-1 第26期第7回機械工学委員会ロボット学分科会議事次第
- 資料 26-7-2 第26期第6回機械工学委員会ロボット学分科会議事要旨
- 資料 26-7-3 意思の表出の申出書(案)
- 資料 26-7-4 過去例：第24期 意思の表出

4. 議 題

1) 前回議事要旨の確認 (資料 26-7-2)

第26期 第6回機械工学委員会ロボット学分科会議事要旨を確認し承認された。

2) 意思の表出の申出書についての意見交換 (資料 26-7-3、資料 26-7-4)

- ・新井委員長より2020年7月の提言(資料 26-7-4)に続く提言の骨子を作成するための方針を議論することが提案された。
- ・新井委員長より、資料 26-7-3 に沿って説明があり、およそそのスケジュールとして本分科会は2025年3月中に申出書を提出予定であり、2025年6月頃に完成度を高めた「提言の骨子案」を提出予定であること、今回の分科会ではこの約3ヶ月の間に作業を行う手順と役割分担を決定する方針が示された。
- ・新井委員長より関連する市民や団体、関連機関などとの意見交換の場を設ける目的として2025年9月2日に開催される日本ロボット学会学術講演会に併設したオープンフォーラム(場所:東京科学大学)を計画している旨の報告があった。申し込み締め切りは5月末。
- ・「意思の表出」を行う検討課題・趣旨のタイトルとして、議論の結果、エンジニアだけに閉じず広い分野におけるロボット学を示す「持続可能な包摂

的社会的なためのロボット学の創成」となった。

- ・提言の骨子案執筆の役割分担について議論を行い下記の項目ごとに議論・執筆を進めることとなった。

- (1) 持続可能な包摂的社会とロボット学に寄せられる期待
- (2) ロボット学の現状と創生すべき新しいロボット学
- (3) ロボットの要素技術
- (4) ロボットの知能
- (5) ロボットの知的制御

3) その他

- ・今後のスケジュールについて

4～5月中に1回分科会を開催することになった。

次回分科会までにSlackに作成した上記(1)～(5)のタイトルのチャンネルで担当者を中心に議論を進めることとなった。

- ・他の分科会との連携について

サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会や、行動生物学分科会との連携についても積極的に行っていくことを確認した。